

ともに、共創る。

糸島市が誕生して1年11か月が経った今、市内15校区ではさまざまな取り組みが行われている。

「子どもが安心して通学できるように防犯パトロール」

「世代を超えた交流事業」「伝統行事の継続」・・・

そのどれもがたいせつなまちづくり。

今回は、そんなまちづくり事業の中の二つ、

深江校区の清掃活動を密着取材した。

この活動から見えてくる

「いとしま共創プラン」の意味とは一体何なのか、

まちづくりをとおして、

どんなことが見えてくるだろうか。



深江校区まちづくり事業

二丈深江の浜で 300人が清掃活動

10月23日、二丈深江の浜に約300人が集結し、清掃活動が行われた。前日の大雨などの影響で浜にはたくさんの漂着物が散乱。当日も天候がすぐれず、時折強い雨が降る中での清掃作業となったが、参加者たちは、雨風に負けることなく、一つひとつ丁寧にごみを拾い集めた。清掃活動後は、地引き網漁が行われ、子どもから大人までこのイベントを楽しんだ。



地引き網漁では予想以上の大漁に漁師もびっくり



真剣に考えた標語が選ばれ、思わず笑みがこぼれる

「はまべには ゴミをすてない おやくそく」

深江の自然と環境を守る会実行委員会が、深江の浜の清掃活動の実施に当たり、地域のみなさんから「標語」を募集したところ、総数284点もの応募が寄せられた。

厳正な選考の結果、4点の入選作品が決定し、23日、清掃活動開会式の会場となった深江の浜で、表彰式が行われた。

見出しの標語は、最年少で入選した山崎玲奈さん(深江小3年生)の作品。

浜の清掃活動はあくまでスタート あのか所の「深江の浜」を取り戻したい

昔の美しい深江の浜をよみがえらせるために

この「深江の自然と環境を守る会」が発足したのは、今年の4月で、第1回目の会議から委員のみなさんと数々の議論を繰り広げしてきました。この地域でまずやるべき事業は何か、そして自分たちボランティアの力でできることは何か、山のような意見をまとめるだけでも一苦労でした。

そのような意見の中から、みんなが共通して抱いていた「昔の深江の浜を取り戻したい。まずはやれることからやろう」という思いを一つにし、最初の第一歩として「深江の浜の清掃活動」計画が進み始めました。

テーマも決まり、すぐに事が進んでいくかと思いましたが、そう簡単な道ではありませんでした。マニュアルなどあるはずもなく、過去の実績もない。そんな中で、ただこの活動をとおして校区民の世代間交流を図りながら美しい海、浜、松林を守り育てたい。それが今後の地域の行事で生きてくるはず。その思いだけが今でも原動力になっています。

もちろん今回の活動で終わりではありません。今後も2か月に1回の清掃活動を続けながら、いずれは松原の整備を自分たちでやっていくという夢を実現するためにも、真つ向から取り組んでいきます。



深江の自然と環境を守る会 委員長 椎葉 英實さん